

「都市と農山漁村との体験交流の県民意識調査結果」

調査の概要

1 調査目的

近年、余暇時間の増加やライフスタイルの多様化、アウトドアへの関心の高まりなどにより、人々の意識は、物質的な豊かさよりも心の豊かさを求める傾向が強まり、都市住民が農山漁村に出かけ、農業、漁業などの自然体験を求める人々が増加している。

また、農村部でも体験交流を農地や森といったかけがえのない農村景観を保全することにも活用できる可能性がある。

今回、農山漁村における農業体験や農業農村に関する意識調査を行い、県民の交流認識や体験のあり方などを把握して、今後の推進に資することをねらいとし、実施した。

2 調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女個人

3 標本数 1,006人(83市町村,市:14名,町:12名,村:10名)

4 調査方法 市町村が無作為により抽出(郵送にて回答)

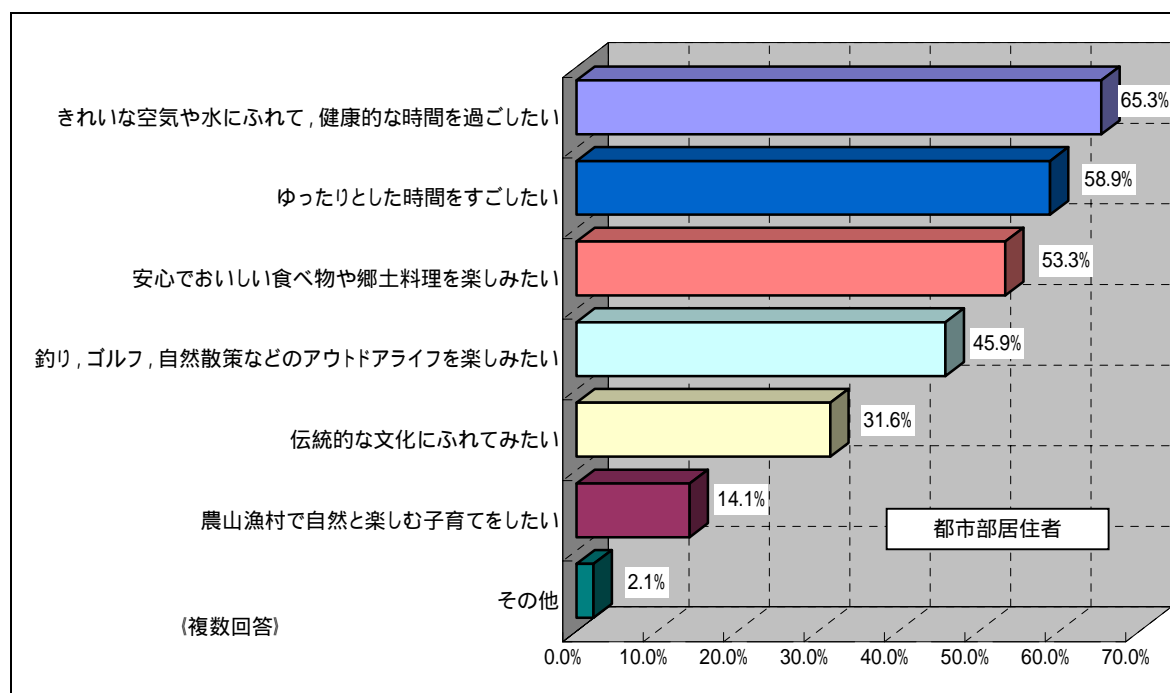
5 調査時期 平成15年10月1日~10月30日

6 回収率 75.2%,回収数757人

(居住地域別内訳は、都市部居住者:377,農村部居住者:380)

主な調査結果

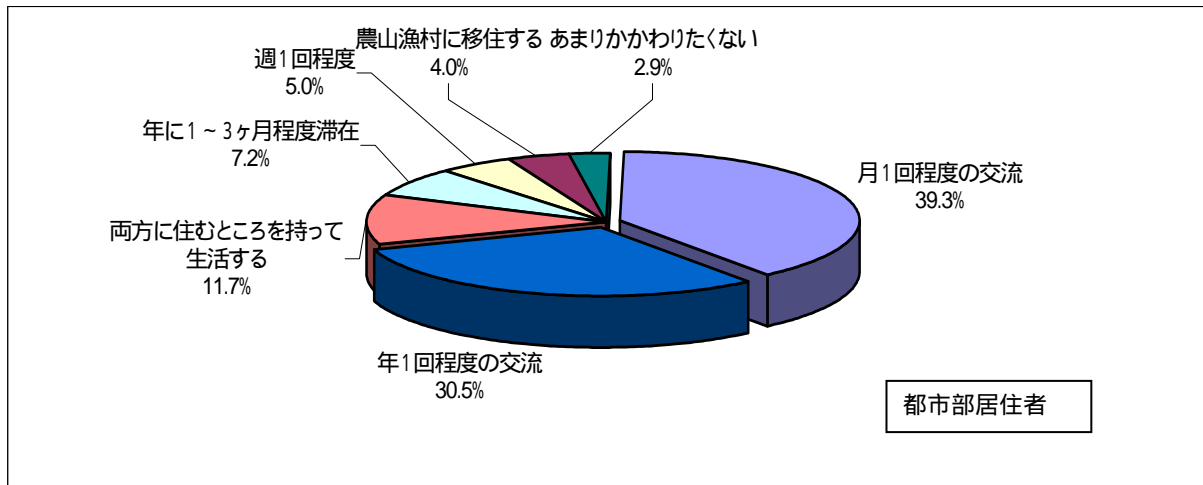
1 都市部居住者の農山漁村地域での体験意向



現在の住まいが都市部(商業地域、近郊住宅街など)と答えた都市部居住者377人に、農山漁村地域との体験意向を聞くと、**全体で369人(約98%)**が農山漁村での体験の意向を希望している。

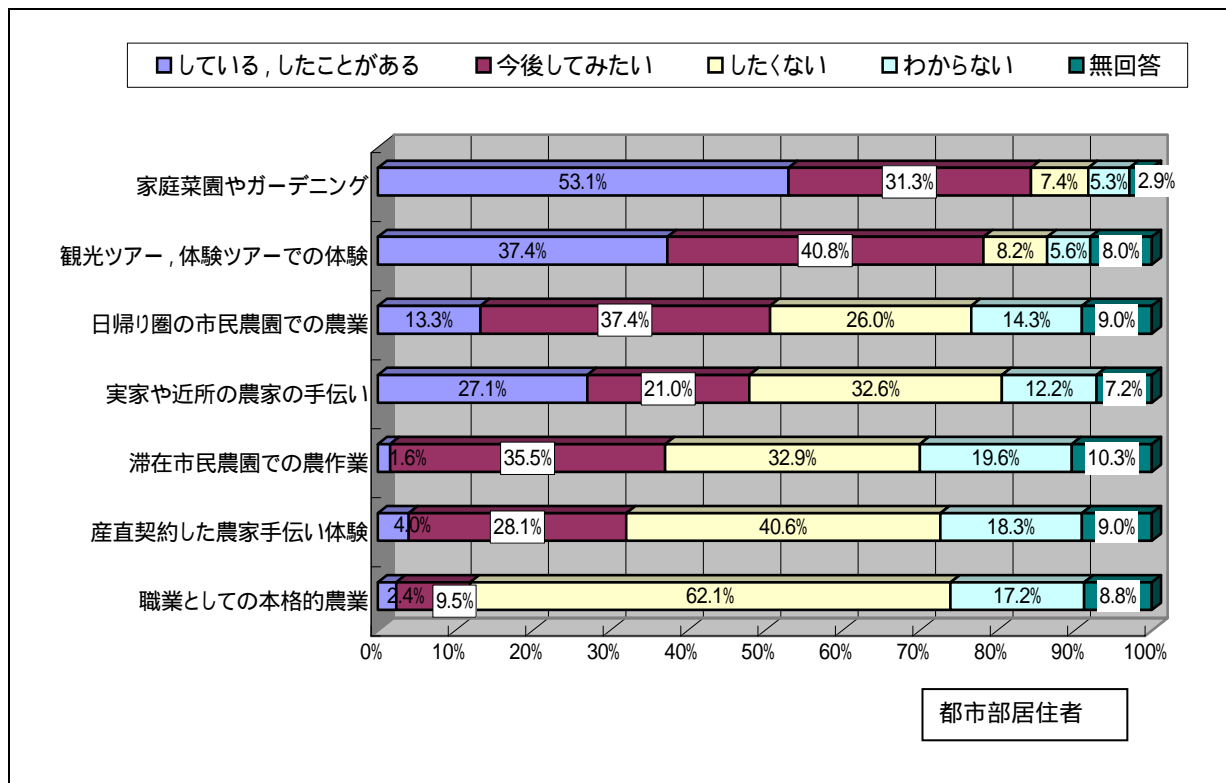
その内訳は、「**きれいな空気や水にふれて、健康的な時間を過ごしたい**」(65.3%)が**もっとも高く**、次いで「**ゆったりとした時間を過ごしたい**」(58.9%)や「**安心でおいしい食べ物や郷土料理を楽しみたい**」(53.3%)が上位にあげられている。

2 都市部居住者の農山漁村での交流頻度と期間の意向



あわせて、都市部居住者に希望する農山漁村との交流頻度と期間を聞くと、**377人中366人(約97%)**が交流に前向きな回答を行い、そのうち、「月に1回程度の交流」が**39.3%を占め**、次いで「年に1回程度の交流」(30.5%)、「都市と農山漁村の両方に住むところを持って生活する」(11.7%)の順となっている。

3 都市部居住者の各種農業体験への現状と意向

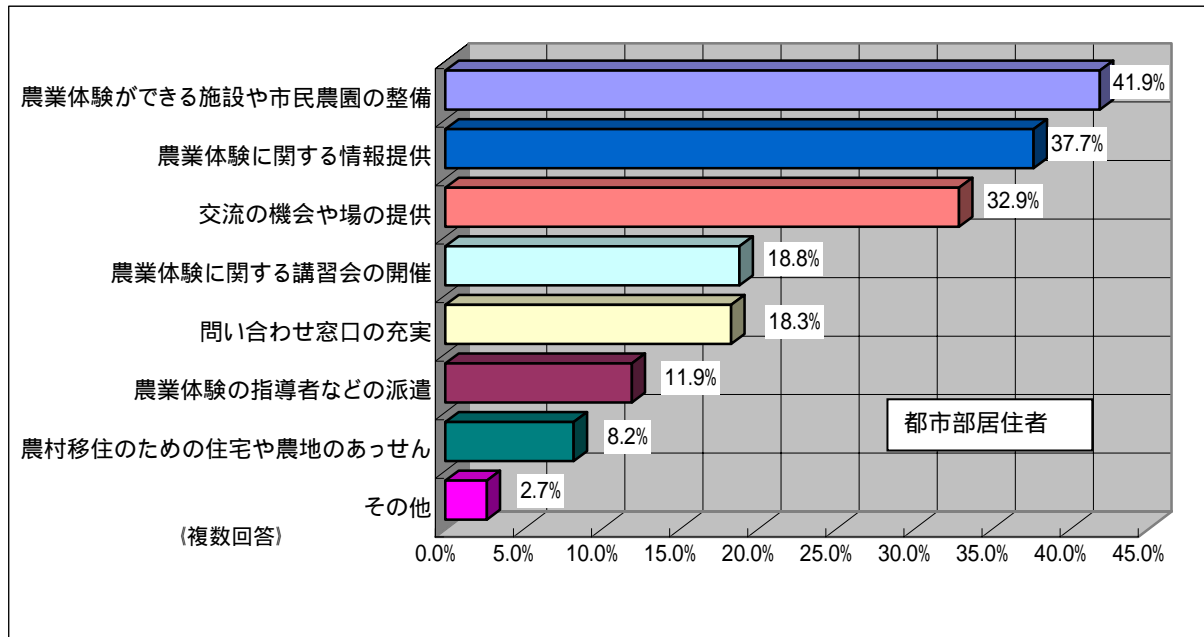


都市部住民の農業への体験意向を見ると、「**している, または, したことがある**」のは〔**家庭菜園やガーデニング**〕(53.1%)と〔**観光ツアー, 体験ツアーでの体験**〕(37.4%)が高くなっている。

「今後してみたい」ものとしては、約4割の方々が〔**観光ツアー, 体験ツアーでの体験**〕(40.8%), 次いで,〔**日帰り圏の市民農園での農業**〕(37.4%),〔**滞在市民農園での**

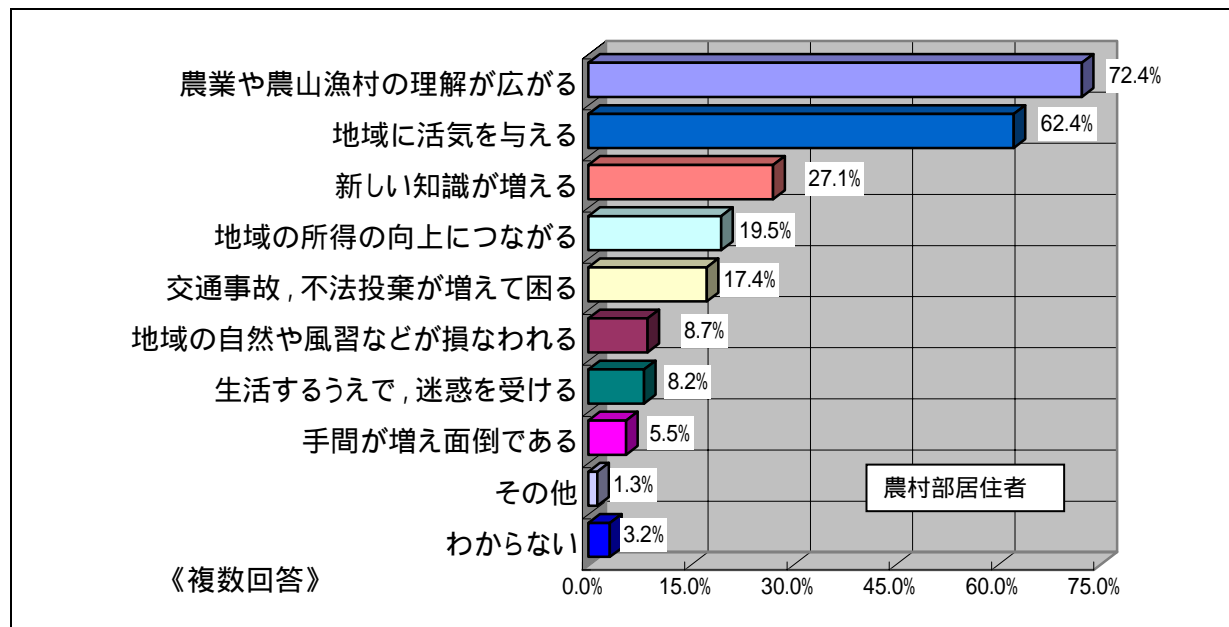
農作業)(35.5%),[家庭菜園やガーデニング](31.3%)となっている。

4 都市部居住者が望む農作業や農業を行うための必要な支援策



都市部居住者に農業体験を行うために必要な支援策を体験者あるいは意向者に聞くと、**377人中158人(41.9%)**が「**農業体験ができる施設や市民農園の整備**」を1位にあげ、以下、「農業体験に関する情報提供」(37.7%)、交流の機会や場の提供(32.9%)になっている。

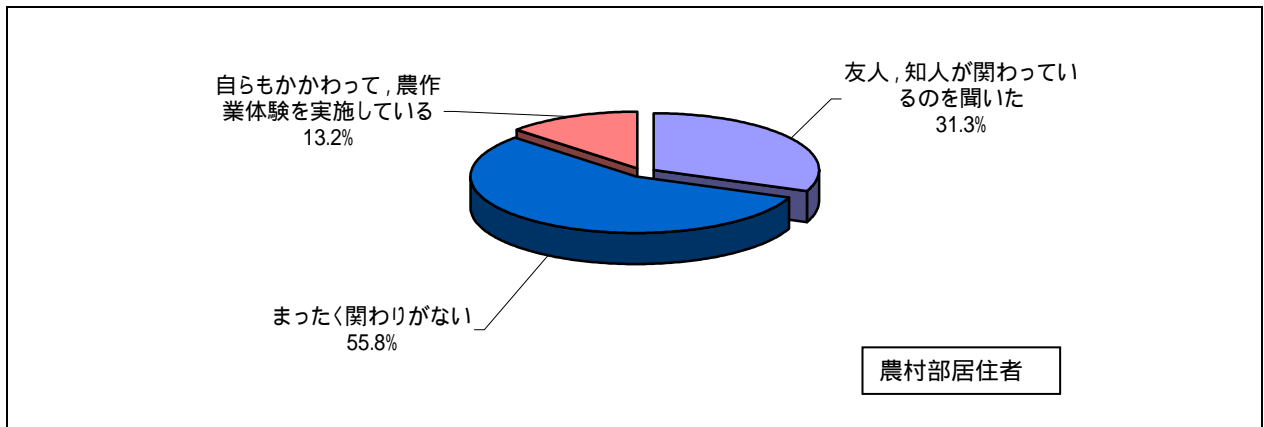
5 農村部居住者の交流についての意識



現在の住まいが、農村部と答えた居住者に都市部住民との交流についての考えを聞くと、**380人中275人(72.4%)**が「**農業や農山漁村の理解が広がる**」と回答し、次いで「**地域に活気を与える**」(62.4%)が続いている。

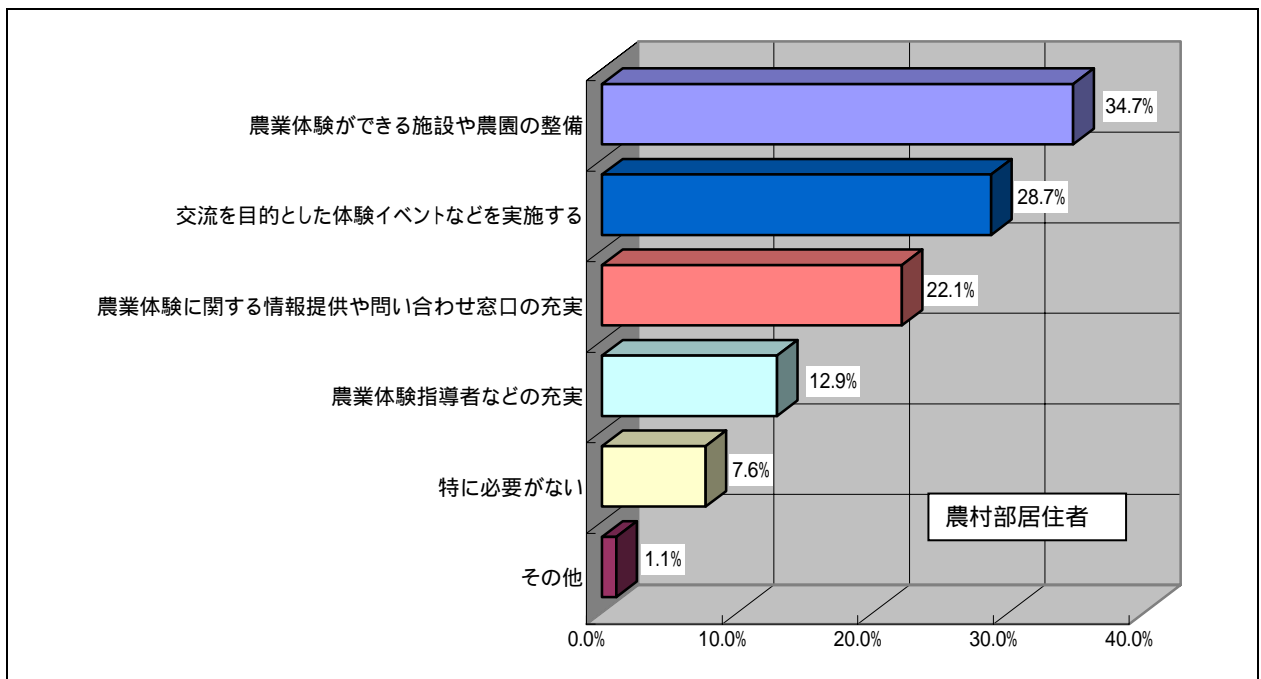
一方、「交通事故,不法投棄が増えて困る」などの交流に否定的な回答も**66人(17.4%)**あった。

6 農村部居住者の現在の交流状況



農村部居住者に現在の都市部との交流状況を聞くと、「全く関わりがない」(55.8%)や「友人などが関わっているのを聞いた」(31.3%)が合計で87.1%を占め、「**実際に関わって農作業体験を実施している**」は、**380人中50人(13.2%)**に留まっている。

7 農村部居住者の交流の課題認識



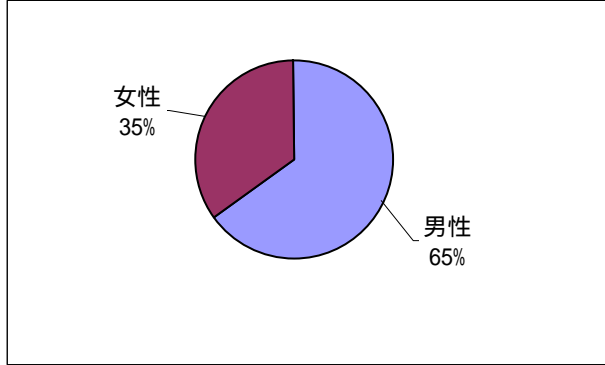
農村部居住者に都市住民との交流を行うために必要な取り組みを聞くと**380人中132人(34.7%)**が「**農業体験ができる施設や農園の整備**」を1位にあげ、以下、「交流を目的とした体験イベントを実施する」(28.7%)、「農業体験に関する情報提供や問い合わせ窓口の充実」(22.1%)となっている。

8 県民意識調査における各種意見

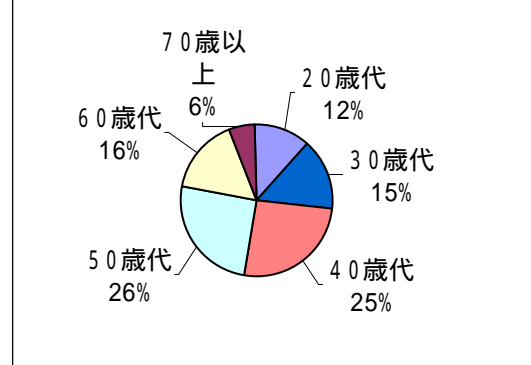
その他、自由に意見を記載する欄においては、子どもたちへの農業体験機会の必要性、耕作放棄地の解消施策の必要性、食の安全と関連する施策の必要性を論じる意見が多かった。

9 アンケート回答者の状況（計757名，都市部：377名，農村部：380名）

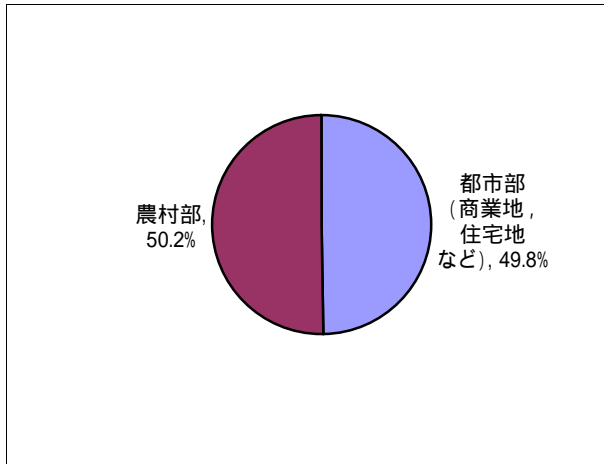
1 性別



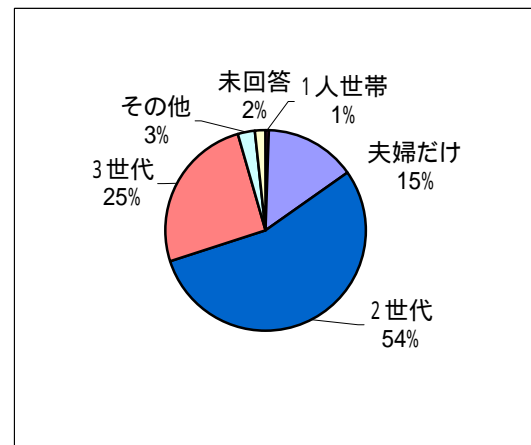
2 年齢



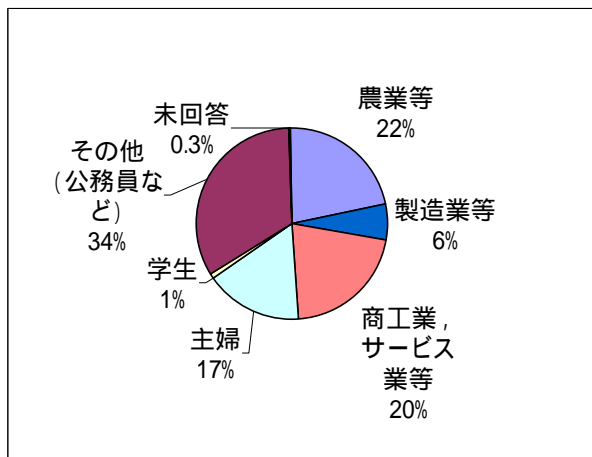
3 居住地域（市町村の部）



4 家族構成



5 職業



6 居住年数

